

ルール補足

1 トウル

1-1 競技ルール

決勝戦以外は、審判が指定するトウルを1つ行い、その勝敗を決める。

決勝戦は審判が指定するトウルを2つ行い、その勝敗を決める。

なお、白帯は決勝以外でもサーージュチルギのチャーロとウーロをどちらも行います。

1-2 その他の注意点

試合の間近に昇級審査を受けた者で新しいトウルを覚えていないものは、試合の日より1ヶ月以内に審査を受けた場合のみ、審査を受ける前の帯にて試合の参加を許可するものとする。

これはあくまでも審査の日が基準であり、新しい帯を授与された日から1ヶ月ではありません。

昇段審査については賞状の発行が海外から送られてくるので、審査日から2ヵ月以内であれば、前の帯にて試合の参加を許可します。

2 マツソギ

2-1 防具について

防具は競技性より安全性を重視し、以下のものを着用していただきます。なお、主催者側が用意すると記載があるもの以外は、全て選手が用意をすること。またフルフェイスのヘッドギアについては強度不足、もしくはすでに傷んでいる状態にて使用した場合の事故については自己責任とすること。

用語については

着用義務...必ずつけること

着用任意...着用は個人の自由 となります。

少年部（小学生以下）

手	着用義務	ウレタングローブ、もしくはITFにて認可された公式グローブ、もしくはそれに類するもの。
足	着用義務	ウレタンブーツ、もしくはITFにて認可された公式グロ

		ーブ、もしくはそれに類するもの。
頭部	着用義務	頭部前面が完全に覆われたフルフェイスのヘッドギア。
胸部	着用義務	腹部前面・側面が覆われたボディプロテクター。(硬質のものは不可)
ファールカップ	着用義務 (男性のみ)	形状は問いません。
シンガード	着用任意	形状は問いません。(硬質のものは不可)

中学生

手	着用義務	ウレタングローブ、もしくは ITF にて認可された公式グローブ、もしくはそれに類するもの。 オープンフィンガーのグローブの場合は必ず軍手を着用すること。
足	着用義務	ウレタンブーツ、もしくは ITF にて認可された公式グローブ、もしくはそれに類するもの。
頭部	着用義務	後頭部を保護してあるオープンフェイスのヘッドギア、もしくは頭部前面が完全に覆われたフルフェイスのヘッドギア。 ただし、オープンフェイスのヘッドギアを使用する場合はマウスピースの着用を義務付けるものとする。 オープンフェイスのヘッドギアのみ大会主催者側にて用意します。
胸部	着用任意	腹部前面・側面が覆われたボディプロテクター。(硬質のものは不可)
ファールカップ	着用義務 (男性のみ)	形状は問いません
シンガード	着用任意	形状は問いません(硬質のものは不可)

成年部

手	着用義務	ウレタングローブ、もしくは ITF にて認可された公式グローブ、もしくはそれに類するもの。 オープンフィンガーのグローブの場合は必ず軍手を着用すること。
足	着用義務	ウレタンブーツ、もしくは ITF にて認可された公式グローブ、もしくはそれに類するもの。
頭部	着用義務	後頭部を保護してあるオープンフェイスのヘッドギア、

		<p>もしくは頭部前面が完全に覆われたフルフェイスのヘッドギア。</p> <p>ただし、オープンフェイスのヘッドギアを使用する場合はマウスピースの着用を義務付けるものとする。</p> <p>オープンフェイスのヘッドギアのみ大会主催者側にて用意します。</p>
胸部	着用任意	腹部前面・側面が覆われたボディプロテクター。(硬質のものは不可)
ファールカップ	着用義務 (男性のみ)	形状は問いません。
シンガード	着用任意	形状は問いません。(硬質のものは不可)

2-2 競技ルール

ITF が定める公式ルールに則り、試合を行います。

ただし試合時間は小学生以下 1.5 分、中学生 2 分、成年部有級(部) 2 分、成年部有段(部) 3 分とする。なお決勝は 2 ラウンド行うものとする。(成年部有段は決勝 2 分 2 ラウンド)

“顔面強打”の反則の定義は威力の有無では無く、コントロールされていないパンチを指します。

例：相手を見ずに打っている(バックブロー時など)

例：打った後にパンチを引く動きが全く無い

例：パンチを打つ前に明らかに振りかぶっている

2-3 計量

計量は下が道着、上が道着、もしくは T シャツにて体重計に乗ること。

またその際に道着の重さを考慮して、小学生以下は 300g、中学生以上は 500g までの超過を認めるものとする。

例：成年男子マイクロ級 57kg 未満 57.4kg は OK です。

また計量は試合当日の選手受付時、もしくは前日の正午(12 時)から 18 時の間に前日計量を行えるものとします。

前日計量を行う場合の方法は以下の通りです。

前日の 12~18 時の間に体重計に本人が乗っている写真と、体重計の数値の写真を以下のアドレスまで送信すること。またその際に名前が分かるように文章、もしくは件名に記載すること。

体重は必ず試合前日の 12 時以降に撮影したものを使用すること。

不正が発覚した場合は失格となります。

前日計量用のメールアドレス zenjitu@hotmail.com

2-4 その他の注意点

エントリーした階級の制限体重に対して、体重が足りない場合は、参加可能とします。

例：少年部男子ライト級 22kg～28kg 未満 21kg でも参加可能です。

3 パワーブレイキング、スペシャルテクニク

前年までの優勝者の成績を考慮して、初期値を設定しますが、初期値をクリアしたものが一人もいない場合は、再度全員がリトライすることができる。しかし、二度目のトライでもクリアしたものがいなかった場合は、勝者はいないという判定となります。

初期値をクリアした後については勝者が決まるまで試技を繰り返すものとします。

4 団体戦

4-1 組手における構成メンバー

新人戦他、有級者の大会の場合

団体を構成するメンバーの数は男子団体戦...3～5名、女子団体戦...3名とする。

また構成するメンバーは**同一の所属道場**によって構成されること。

ただし、同一都道府県連盟内において、複数の道場があり、なお且つその複数の道場を一人の指導員が管理している場合に限り、都道府県連盟単位で参加できるものとする。

例：同一県内において A 道場、B 道場があり、どちらも X 指導員が道場長として管理している場合。

都道府県連盟にて参加可能。

例：同一県内において A 道場、B 道場、C 道場があり、A 道場、B 道場は X 指導員が道場長として管理、C 道場は Y 指導員が道場長として管理している場合。

都道府県連盟にて参加は不可。

なお、学生連盟については各大学単位にて参加すること。

4-2 組手における勝敗について

勝ち星の数で勝敗を決するものとする。また勝ち星で上回ることが不可能になった場

合に、試合をしていないメンバーが残っていても、その段階で団体戦は終了するものとします。

2015年6月17日制定

2015年6月24日改定

2015年11月5日改定